

2050年に実現すべき姿

1 環境負荷の少ない持続的な社会の実現

バイオマスリファイナリーが構築され、これをベースに、温室効果ガス抑制効果が高く、コスト的にも優れた様々な製品・燃料が開発され、石油化学製品からバイオマス製品への代替が進むとともに、地球温暖化の防止及びエネルギー供給源の多様化が図られる。

セルロース系バイオマス等、食料の安定供給と両立するバイオマスの利用技術が確立されるとともに、バイオマスの種類に応じてマテリアル利用からエネルギー利用に至るまでの適切なカスケード利用体系が構築される。

このように、再生可能なバイオマス資源を最大限効率よく活用する社会システムの構築により、持続的な社会が実現する。

2 新たな産業創出と農林漁業・農山漁村の活性化

上記のような社会の構築の過程で、従来の石油化学工業に代わり、バイオマスを原料としてエネルギーや製品を生産する新たなバイオマス産業が創出される。

この際、先端技術の導入により、高い付加価値を持ち国際的な競争力のある製品がバイオマスを原料として製造されるようになり、我が国経済の発展に寄与する。

さらに、原料となるバイオマスの供給を通じて地域の農地や森林の有効活用が図られ、農林漁業が活性化するとともに、小規模かつ効率的なバイオマス利用技術が確立することにより、地域で消費される熱等が地域のバイオマスを活用して供給されるなど、地域での資源循環システムが構築される等、農山漁村地域の活性化が図られる。

3 バイオマス利用を軸にした新しいライフスタイルの実現

国民一人ひとりの中に、私たちの身近にあるバイオマスは、資源として利活用されるものであるとの意識及び生活習慣が定着し、廃棄物系バイオマスの発生抑制が進む。

このような国民の意識の変化に伴い、再生可能な資源を活用した製品やエネルギーの選択的利用が進み、バイオマスを活用した産業の成長が加速していく。

4 国際的な連携の下でのバイオマス活用の推進

海外でもバイオマスの活用が進展し、これに伴い、品質面での基準のみならず、製品の持続可能性等に着眼した基準が国際的に合意され、我が国もこれらの基準作りに積極的に参加し、国際社会における持続可能なバイオマス利用システムの確立に貢献する。

また、我が国と同じアジアモンスーン気候に属する東アジアを中心として、我が国の優れた技術を活用しつつ、地域の社会条件に応じたバイオマス活用システムの構築を支援する。

このような取組を通じて、これらの地域との結びつきが強化され、バイオマスやその製品の安定的な交易関係が構築される。